

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称 第2回丹波篠山市総合計画審議会

2 開催日時

令和元年 10月30日(水)19時30分から21時00分まで

\*受付時間(19時20分から19時30分まで)

3 開催場所 丹波篠山市民センター 多目的ルーム2, 3

4 会議に出席した者の氏名

(1) 委員 中塚 雅也、横山 宜致、森本 秀樹、山本 高久、田代 優秋、  
利根 茂樹、土性 里花、澤 光吉、前田 公幸、太田 鈴子、  
畑 茂樹、田中 義治、加藤 哲夫、小倉 義彦、向井 祥隆、  
今井 進、山尾 大介

欠席委員 大西 富美子

(敬称略・順不同)

(2) 執行機関 梶村 徳全、竹見 聖司、山下 哲也、酒井 誠、中森 恵佑

5 傍聴人の数 0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別 公開

7 会議資料の名称 資料1 市民アンケート調査結果の抜粋・速報  
資料1-1 市民アンケート調査結果(年齢・地区別集計)  
資料2 丹波篠山市の未来を描く未来会議  
ワークショップ参加者意見  
資料2-1 ワークショップ参加者の構成  
資料3 総合計画策定にかかる意見一覧  
市内の人口流動についての分析  
基本構想素案

## 8 審議の概要

### 1. 開会

### 2. 中塚会長あいさつ

### 3. 協議事項

#### (1) 市民アンケートの集計結果について（資料1、1-1）

ワークショップ参加者意見、参加者構成について（資料2、2-1）

総合計画策定にかかる意見について（資料3）

#### (2) 市内における人口の流動について

【事務局】 協議事項（1）、（2）について説明

【会長】 事務局の説明に対し、意見・質問等あるか。

【A委員】 ワークショップに10代20代の参加者が多かったと説明があったが、若い世代からはどんな意見が出たのか。

【事務局】 市内中学や高校の生徒達も自ら申し込んで積極的に参加してくれた。篠山にこれからも住みたい、帰ってきたいという方が多かった。日本遺産や多くのイベントがあり、観光客がこれからも増えていくと思うという意見や、自然が好きなので、これからも大切にしたい等、よいイメージを持った方が多かった。一方で遊び場が少ないという意見や、後継者問題について話す方もいた。

【B委員】 アンケート結果について、誰が分析していくのか、またここから見えてくる課題を総合計画に活かしていかなければならないのではないのか。

【事務局】 分析についてはまだ不十分である。今後、さらに分析していく予定である。現段階では資料1-1の青い網掛けの部分について、今後の重点的に取り組むべき事項として捉えている。若者のまちづくりへの関心が薄いという結果であったが、若者がまちづくりに参加できるような仕組みを考えていかなければいけないと感じている。

【C委員】 住み続けたくない理由の中には生活圏域の視点で見ると解決できることもある。医療、買い物等それぞれの圏域を再編していくことで暮らしを良くしていくことができる。市全体ですべてのことを考えるのではなく、地域ごとの特色を考慮しながら生活圏域という視点で分析をしてもらいたい。

【 会 長 】 おっしゃる通り、アンケート結果も細かく見ていく必要がある。数が多いところに引っ張られないように各地区や年代、性別を考慮して分析を進めてほしい。

【 D 委員 】 味間地区をとってみても地区内で違いがある。特に住吉台ではボランティア等に関心がある方が多いと感じている。特異な地域は個別に分析を進めていただきたい。

【 E 委員 】 地域の企業に活気が感じられないという結果にショックを受けている。市民の方々は働く場がないという結果になっているが、企業側では常に人材不足が課題になっている。原因はわからないが、認識に差があるという印象である。

【 F 委員 】 災害に強いまちについては評価が高いように見えるが、評価が高ければ何もしなくていいというわけではない。異常気象による災害も日本各地で発生しているが、常に危機感を持って備えていくことが重要である。

【 G 委員 】 人口減少により、自治会の担い手がどんどん減少している。丹波市では市民プラザが新設された。まちづくりへの関心度が低い、もっとたくさんの人が参画できるように市も注力してほしい。

【 会 長 】 アンケートの結果については、表面的な数値のみを見るのではなく、注意深く解釈していく必要がある。

【 H 委員 】 アンケート結果は参考にすればいいと思うが、実際に感じている肌感覚を大事にしていきたい。

【 I 委員 】 アンケート結果が実感の裏付けとなっているものもある。アンケート結果は参考になる資料である。

### (3) 基本構想素案について

【 事 務 局 】 基本構想素案について説明

【 会 長 】 今後の審議会のスケジュールを補足していただきたい。

【 事 務 局 】 基本構想素案の内容についての議論は、次回改めていただきたい。

【 会 長 】 本日は基本構想素案について感想いただきたい。基本構想策定にあたり、どこまでの部分を盛り込んでいくのか、誰に向けて何を伝えるのか

も含めて発言していただきたい。

【副会長】 非常に重たい内容となっている。丹波篠山市の特色がなくなっているように感じる。またどの分野でも後継者不足が問題となっているが、担い手の育成の部分を盛り込んでいきたい。加えて地域のコミュニティが崩れかかっている今、地域創生ではなく地域再生という視点で議論を深めていきたい。

【J委員】 誰に向かっている中身なのかがわからない。どこの市町村も似通ったものを感じるし、市民は読まないと思う。もっと先進的な施策を打って、一つのことには突き抜けた表現をしたほうが市民には伝わるのではないかと。今までやってきたことでも実らなかったものは捨てて、新しいことを実現したほうがいい。

【事務局】 総合計画の策定の目的や役割について補足説明。

【H委員】 丹波篠山では～という記載がないところがあるので、追記していただきたい。農と食について、食の部分の記載がないので加えていただきたい。市の西が京阪神からの入り口として栄えているが、東の玄関口を大きく打ち出して同様に発展し、関係人口、交流人口の獲得ができるような施策も盛り込んでほしい。

【K委員】 人口減少はやむを得ないというシミュレーションが記載してあるが、非常に寂しい。財政面では実質公債費比率が年々改善されていくようだが、実質公債費比率を下げずに新しい施策をどんどん打ち出さなくてはならないのではないかと。また農業面では、国は大型農家、認定農家の支援に舵をきっているが、丹波篠山市では家族農家の支援によって各農家の所得向上を図るべきだと考える。

【L委員】 近年課題となっている外国人や観光にかかることへの記載がないように思う。基本構想素案29ページの基本目標の中の林業という表記は変えたほうがいいのではないかと。丹波篠山での森林は生業というよりかは、防災や環境面での役割のほうが強いと思う。

【会長】 追加してほしい事項等ではなく、全体の方向性について意見をいただきたい。

【D委員】 ブランドは人だと思ふ。福祉を土台としているが、記述が少ないように感じる。ハード面ばかりに着目するのではなくソフト面の福祉の根幹となる部分を大切にしていきたい。現状の評価を踏まえて「福祉でまちづ

くり」ができるように記述してほしい。

【C 委員】 この素案から大きな筋書きが見えないので、意識して策定していかなければいけない。

【会長】 基本構想ではブランドというよりも、前に向かって進んでいく丹波篠山の姿というものをみせていく必要がある。個別の事業によってはマーケティングやブランドが必要になるが、まちのブランディングとこれからのまちづくりのビジョンを作り上げることは分けて考えていきたいと思う。

(4) その他

【事務局】 当初の予定より、審議会を1回多く開催させていただきたい。次回の日程については後日調整させていただく。

(5) 閉会

今井副会長あいさつ